

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立北波多小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・どの項目も概ね目標通り達成することができた。 ・UDの視点を取り入れた授業づくりでは、職員間での取組の共有や理解も進んでいる。今後は、さらなる手立ての共通理解を深め、北波多小のスタンダードな授業づくりとして定着を図ってきたい。 ・小中連携については、職員も毎年入れ替わることから、今後も続けて連携の重要性を全職員が意識できるよう取り組み、連携を深めていきたい。幼小連携については、まずは職員が互いに授業や取組等を参観できる仕組みづくりを整え、より充実した連携を進めていきたい。 ・校時表の見直しにより、職員の実感を伴う業務負担の軽減を図ることができた。しかし、個人間での差がまだ見られるので、その解消に向け、職員のタイムマネジメント意識向上につながよう研修等を行い、業務改善をさらに進めていきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	<p>とことん学び ともに高めあう 元気いっぱい北波多っ子 ～笑顔と思いやりがあふれる学校～</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>◇豊かな心の育成 ◇確かな学力の育成 ◇健やかな体づくりの育成 ◇安心・安全な学校づくり ◇家庭・地域との連携強化</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標 (数値目標)								
●学力の向上	○UDの視点を取り入れた授業づくり(学ぶことを楽しみ、主体的に学習に取り組む児童の育成)	○業者テスト(国語・算数)学期末評価B以上の児童80%以上	・指示や板書の方法、授業の形態等を工夫し、学習内容を児童がより深く理解できるようにするための方法について、校内で研究を進め実践する。	B	・校内研でUDの視点を取り入れた学校づくりに取り組み、2年目を迎えた。全ての児童が安心して過ごし、学ぶことのできる学校の実現に向け、「環境づくり」「人間関係づくり」「授業づくり」の視点から取り組んでいる。	A	・業者テスト評価B以上の児童は80%を上回った。 ・すべての教職員がUDの視点を取り入れた授業を推進できたと回答した。 ・2年間で出されたUDの視点にたった手立てについてまとめ、今後の共通の取組として実践していきたい。	A	・今後も共通の取組として継続的に取り組んでほしい。	学習部 学力向上担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○集団の中で積極的に活動したり協力したりできた児童85%以上 ○進んであいさつをすることができたと肯定的な回答をした児童80%以上	・縦割り班での遊びを通して、異学年交流に取り組む。 ・人権教室「かがやきタイム」の充実を図り、「仲間づくり」に視点を置いた取り組みを実践する。 ・委員会やボランティアの児童と共に、朝のあいさつ運動を推進する。	B	・縦割り活動を行い、楽しみながら異学年交流をすることができている。 ・委員会の活動にボランティアの児童も加わり、挨拶運動を実施している。 ・様々な行事の中で、それぞれの学年ができる係を受け持つことで、みんなで作り上げたという思いが育ってきている。	A	・縦割り班遊びの回数を増やした結果、お互いの顔と名前が一致して親しむことができた。 ・生活委員会を中心に挨拶運動を広げてきたが、いつでも、どこでも挨拶ができるようになるにはもう工夫が必要と感じている。 ・学級や学年の代表として活躍した児童のようになりたいというあこがれやクラスの中で自分の役割を果たせて満足したなど、行事や日々の学級活動の中で心を育てることができた。	A	・行事などの参観に行くと、子どもたちから元気をもらうことが多い。感想交流の時間に自分の言葉で伝えることができている、安心できる関係ができていると感じられる。	特活部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「困ったことがあれば、先生や保護者に相談できる」と肯定的な回答をした児童80%以上	・Q-Uアンケートや毎月の「心のアンケート」の結果を週1回の連絡会で情報共有を行うとともに学級経営に生かす。 ・いじめ防止対策委員会を中心にいじめ防止対策を行う。年2回の拡大委員会を開き、情報共有と適切な対応を行う。	B	・いじめアンケートの結果から14件のいじめを認知し報告した。週に1回連絡会で問題行動の等の共通理解図っているが、今後も早期発見・早期対応に努めていく。	A	・いじめアンケートで認知された14件については、担任を中心に関係する児童や周りの児童、保護者に配慮した対応をすることで、最終的には大きな問題無く早期解決をすることができた。 ・週1回の子ども支援会議で、全校の児童をの情報を共有することで全ての職員が、問題を抱えた児童などの対応に生かすことができた。指導の工夫を行うことができた。	A	・いじめアンケートの結果から3か月をめでに解消したかどうか、再び協議されていることが分かった。解消できているということは、きちんと対応できているということではないか。引き続き根気強く取り組んでほしい。	特活部 生活部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・キャリア教育に関わる諸活動について、キャリアパスポートを系統的に位置づけ、自身の変容や成長を自己評価させる。 ・郷土について学ぶ体験活動をカリキュラムに位置付ける。	B	・計画的に郷土について学ぶ体験活動や講話に取り組むことができている。 ・これまで取り組んできたキャリア教育に関する諸活動の振り返り等を通して自身の変容等をキャリアパスポートで自己評価していく。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」に回答した児童は92.5%を超えた。 ・「将来の夢や目標をもっているか」について肯定的な回答をした児童は88%を超えた。キャリア教育の取組内容を外部講師等の力を借りてさらに推進していきたい。	A	・夢をもてることは素晴らしい。 ・豊かな心の育成のためにも、本物に触れる機会を増やしてほしい。	教務部
	◎人権・同和教育の推進 ○心のアンケートの推進	◎「児童生徒を対象にした人権学習」の実施率90%以上 ○「学校では楽しく生活することができていますか。」と回答した児童90%以上	・児童生徒支援教員を中心に、人権学習の授業プランを提案、実行する。 ・日常生活において、安心して過ごすことのできる集団づくりと教職員との良好な関係づくりを行う。	B	・人権学習の実施率は90%に満たないが計画通りに進めることは概ねできている。今後さらに推進していく。 ・さらに誰もが安心して過ごすことのできる集団作りを目指して取り組んでいく。	A	・6年生の部落問題学習など、児童生徒支援教員のフォローのもと、各学年で人権学習に取り組むことができた。人権について自分事として考えることのできる児童を目指したい。 ・アンケートで児童が安心して生活できないような状況を細やかに見取り、問題があった場合、早期解決を心がけた。全ての児童が安心して過ごすことのできるような集団・関係づくりを引き続き目指す。	A	・おむね楽しく過ごしている児童が多いが、記述されているように1割の児童に目配りしていくことの大切さを感じる。支持的な集団づくりが大切だと思うので、学級づくりを大切にしてほしい。	学習部 生活部
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童生徒90%以上	・各学期において、食に関する指導を全クラスで行い、児童の食に対する意識を高める。	B	・「健康に食事が大切である」と考えている児童は90%を超えている。	A	・給食や各教科において、食に関する意識を高める取組を行うことができた。	A	・給食でしっかり栄養を取ってもらいたい。学校でしっかり意識の育成をしていただいていると感じている。	保体部
	●「望ましい生活習慣の育成」	○朝の健康観察を100%にする。 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣を身に付けることができていく児童90%以上	・家庭と連携して、健康維持の意識向上に取り組む。 ・換気、手洗い、消毒、密の回避など感染対策も引き続き行う。	B	・朝の健康観察は100%実施できている。 ・家庭にプリント等で「早寝・早起き・朝ごはん」の取組への協力や感染症予防対策を呼びかけるなどして健康維持に関する意識向上に繋がってきている。	B	・朝の健康観察は100%実施できた。 ・「健康に食事・睡眠・運動が大切である」と考える児童は100%であった。 ・毎月保健だよりを発行し、児童・家庭に向けて「早寝・早起き・朝ごはん」の取り組みへの協力や望ましい生活習慣について7回触れた。今後も家庭と連携し、児童が生産を通して健康に過ごせるよう健康維持の意識向上に取り組む必要がある。	A	・「望ましい生活習慣」「望ましい食習慣」について学校では意識の育成をしてもらっているため、この後は家庭の出番だと思います。家庭によって事情も様々だと思うが、頑張っていってほしい。	保体部

●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・サービス管理システムを活用し、毎月の時間外在校等の時間が45時間以下になるようタイムマネジメントの意識を高める。 ・校務分掌や教材研究に係るデータの共有化を図る。 ・年次取得日数を年間14日以上とし、定時退勤日(毎週金曜日)の遵守を進め、メリハリのある業務推進とワークライフバランスの意識の向上を図る。	B	・サービス管理システムの利用で時間外在校時間を意識することにつながってきているが、45時間以下でない職員も複数いる。 ・夏季休業中に年休を取得しやすい環境を整備した。今後も年休取得を呼びかける。	A	・時間外在校時間を45時間以下にすることに對しての意識が高まり、年度末になるにつれて45時間以下の職員数が増えた。 ・年次取得日数、年間14日以上を達成した職員は38%にとどまったが、10日以上取得者は92%を達成することができた。	A	・年休10日達成で、よく努力されていると思う。引き続き、業務効率化に取り組んでほしい。	様式1(小・中) 管理部
	○業務精選の推進	○行事の精選や日々の業務の不断の見直しをさらに推進する。	・業務の効率化、働き方改革が進んでいると感じる職員の割合を90%以上	B	・業務の効率化、働き方改革が進んでいると感じる職員は90%に達していない。効率的に業務を行う小さな改革は行っているが多忙感をめぐり切っていない。さらなる業務・行事の見直しが必要と考える。	A	・ほとんどの職員(90%)の職員が業務の効率化、働き方改革が進んでいることについて肯定的な回答をした。行事の精選や日々の業務の見直しをさらに推進し、多忙感をめぐり切ることにつなげていきたい。	A	・ストレスをためると、いろいろな方面に悪影響が及んでしまうこともあるので、メリハリのある働き方ができるように引き続き環境改善に努めてほしい。	管理部
●特別支援教育の充実	○児童の特性を考慮した環境整備(人的・物的) ○特別支援教育に関する知識の深化	○特別支援教育への理解が深まったと回答する教職員の割合80%以上	・週1回の子ども支援会議の実施 ・特別支援に関する研修会の実施(校内研究を含む) ・ケース会議の開催と情報共有	B	・子ども支援会議・子どもサポート委員会は計画通りに実施できている。 ・校内研でも特別支援教育の考え方を学び機会を確保した。今後も研修を充実し研鑽を積んでいく必要がある。 ・必要に応じてケース会議(外部も含めた)を開くことができた。	A	・「特別支援教育への理解が深まった」と回答する教職員の割合は95%であった。 ・子ども支援会議・子どもサポート委員会は計画通りに実施でき、全職員の意識の向上につながった。また、ケース会議の開催も情報共有に有効であった。	A	・個への対応は増える一方ではないかと思われる。その中で学校にはよく頑張っていたに感じている。	特別支援教育担当

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○小中連携の充実と地域連携の強化	○小中連携による学力向上と、地域住民(学校支援ボランティア)・保護者と協働した教育課程の実施	○小中連携・地域連携による取組への肯定的な回答をした保護者・教職員の割合80%以上。	・小中合同推進委員会と研修会の定期的な実施 ・小中相互の授業参観 ・学校教育活動に合った学校支援ボランティアとの連携を推進する。	B	・小中相互の授業参観や研究授業への参加で今後の課題把握につなげていくことができています。 ・学校支援ボランティア活動については、予定していた活動を実施できている。	B	・小中連携・地域連携による取組への肯定的な回答をした教職員の割合85%、保護者の割合は97%を超えた。保護者との連携を行い、信頼関係を作ることができたと感じている教職員は90%であった。 ・学校支援ボランティアの体験活動は計画的に実施できた。	B	・小中合同であった、人権教室はとてもよかったです。小学生、中学生のそれぞれの考えや意見を聞くことができた。 ・小中1校ずつの環境を生かし連携を深めていってほしい。	教務部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・どの項目もおおむね目標を達成することができた。 ・サービス管理システムの利用により職員のタイムマネジメント意識の向上してきている。さらに業務の効率化を進め、仕事にやりがいを感じ努力の成果を認め合う働きやすい職場づくりに努めていきたい。 ・小中連携については小中1校ずつという連携を行うには恵まれた環境にあるため、全職員が9年間の学びの大切さを意識でき、かつ実践に結び付けることができる内容となる連携の見直しを図りたい。
----------------	--